

Kyoto Music Center

皆様の

十字屋楽器店

TEL (2) 575.5466

The 47th
Anniversary
Concert

DOSHISHA

Glee Club

Saturday 20th Oct. 1951 Doshisha Fowler Chapel

御 紹 介

慶應義塾ワグネルソサイエティー

ワグネルが創立されたのは明治三十四年のことで今年で満五十一歳を数える。初演奏は明治三十五年に大學クラブで聲樂部が最初の試みとして、「ドナウ河の漣」の一節に當時の部員、田村貞一氏が「月が霞む春の夜……」を作詩し歌つたのが始めてである。第三回には初めてソロを得て器樂部が初演奏をした。

其の後明治三十九年に、ワグネル最大の功勞者大塚淳先生を指導者に得た。明治四十一年四十二年には、青森、北海道、又遠く滿洲にまで演奏旅行をした。四十四年にも滿鐵の依頼で大連—長春間演奏旅行をしたことが記録にのこっている。

大正後期には外國の有名な音樂家が來朝する様になり、ワグネルもジェームス・ダン氏等を招いてピアノの指導をうけたりする様になり、技術も向上した。大正九年には、當時有名だったチェリスト・シエラ氏の來朝がありワグネルが主催して音樂會を開き、大成功を収めた同時大塚先生の關係で、當時上野の生徒であつた橋本國彦、木下保氏が來られ、一語に指導された。

昭和四年春はハイドン第六交響曲、秋にはベートーヴェンの第八、指揮に橋本、木下兩氏の記録があり、同六年には關西學院グリークラブと交歓演奏會を催している。發展を重ねるワグネルは學生音樂界の主導的立場をとつていたが時局、は益々非音樂的となり、遂に昭和十八年十一月、ワグネルも學徒出陣壯行音樂會の名の下に、音樂とも榮友とも惜別せざるを得なかつた。

終戦を迎えたワグネルの姿はみじめであつた。然しその廢墟に歸り集つた部員は再健のために立上つた。傳統に對する愛情の故に、そして音樂に對する情熱の故に復活第一回定期演奏會は昭和二十一年十二月二十三日帝國劇場に於て催された。これは實に第七十一回目の定期演奏會であつた。その後毎年日比谷公會堂にて定期演奏會を催し昨年二十五年十二月十八日、日比谷公會堂に於て創立五十周年記念、第一回定期演奏會を先輩現役一堂に會し盛大に催した。なお合唱團に於ては毎年、合唱コンクール、合唱祭、G. H. Q關係、放送等に活躍している。

同志社グリークラブ

同志社グリークラブは創立以來四十七年、現在部員總數八十數名と云ふ大世帯で校内演奏は勿論、放送に演奏旅行に活躍しグリークラブでの目的たる「同志社精神を戴し、メンバー相互のメンタルハーモニー・カレッジライフの向上」に不躓の精神を續けてをります。

この團體も草分時代即ち明治廿六年頃には單に讚美歌を練習する爲の小グループに過ぎませんでした。それが明治四十四年片桐哲氏がこれを同志社グリークラブと名付け、初代指揮者となり始めて組織化されました。所が、この合唱團は宗教本位で聖歌隊的なものだつたので、これに飽きたりない學生が大正二年プリムローズクラブなる合唱團を組織して、一般の合唱音樂の研究に努めるやうになりました。以後兩合唱團は或は共に或は別に發表會、コンクール、演奏旅行等に活躍發展しました。その旅行の足跡は國內は勿論、遠く朝鮮、滿洲、中國、台灣にまで及んで居ります。

昭和十六年、二つの合唱團は合併し同志社大學男聲合唱團となり、兩方の性格を兼備するやうになりました。その後戦争の激化と共に音樂活動もまよにならず一時は練習もとどえ勝ちとなりましたが、戦後いちやく復活し同志社グリークラブとして再發足し今日に到つておます。その間毎年立教グリークラブとの交歓演奏會に、コンクール、放送、發表會に研究と努力を續けて來ました。コンクールに於ける成績は關西に於ては一位三回、二位三回日本では二位一回と、それに昨年第一位を得ました。

又本年八月には戦後最大の演奏旅行として二週間にわたつて東北北海道を廻つて來ました。かくの如く半世紀にわたる輝かしい歴史の間に約二百名の先輩を送り、今なほ音樂界に活躍中の内田榮一、大中寅二、湯淺永年、山口隆俊、森本芳雄、宅孝二、の諸氏もその中の一人であります。

同志社グリークラブ發表演奏會

贊助出演

慶應義塾ワグネルソサイエティー合唱團
パイプオルガン独奏 グレース・ヘツセル

1951年10月20日(土) 后6時
於同志社榮光館

主催 同志社グリークラブ 後援 京都慶應クラブ
同志社大學文連

「グリークラブ發表會に寄す」

グリークラブ顧問 片桐 哲
同志社女子大學長

我々は如何なる暗黒の世にも決して絶望してはならない。そこには何か人間のより善きものより美しくきもの、が残されているからである。常に神を讚美し、人間性に於けるより高く、より美しくきものを目指すことにより、我々はその暗黒をつきやぶつて、更に輝かしき人類の未來へ歩を進めることが出来る。

同志社グリークラブが今日、四十數年の傳統を護り、なお隆盛の一途をたどらうとしているのも實に諸先輩からうけつがれたこの精神によるものである。即ち合唱することによつて神を讚美し、その美しくきハーモニーを通じて、人間性に於ける諸々の美に對する愛を呼び醒ますこと、これこそグリーの精神である。願わくばわがグリークラブが、今後とも同志社教育精神の實を現し、世界に誇る同志社學園の好きシンボルとして健實な發展をとげられんことを祈る

(1951.10.20)

御 挨拶

私達同志社グリークラブはキリスト教精神に則り同志社大學の學園生活を基礎に、部員相互のメンタルハーモニーをその精神として生の感謝、神の讚美の中に音樂藝術の探求にいそしんで参りました。

本日こゝに研究發表の會を開くにあたりましてメンバー一人一人が諸先輩の残されたる古き歴史と、輝かしき傳統に對して新たなる感激を覺えると共に過去四十七年私達グリークラブに寄せられました同志社學園の職員、學生諸兄、校友同窓、合唱愛好の皆様御女情に對して心よりの感謝を捧げる次第で尙座居ます。

なお本日の發表會のためにわざわざ東都より御出で下さつた慶應義塾ワグネルソサイエティー合唱團の方々への心からの歓迎と御禮を申し上げます。

最後に私達は同志社グリークラブの持つ使命の重大さを痛感すると共に更に偉大な、又輝かしき傳統を創るべく努力をつぎける事をお誓ひします

1951.10.20

同志社グリークラブ

趣味の洋装店

ニュー・イスコート

すばらしいデザインと技術

河原町四條長崎屋ビル3階 電本(2)2832

喫 茶

趣味の店

喜 久 屋

京・四條河原町

PROG

I College Song

II 挨拶

III 合唱

同志社グリーンクラブ
指揮 日下部吉彦

- a. O Sacrum Convivium.....Viadana
- b. O Bone Jesu.....Palestrina
- c. Kyrie.....A. D haupas

IV パイプオルガン獨奏

同志社女子大學
グレース・ヘツセル夫人

- a. Pastorale.....C. Franck
- b. Toccata in Dminor.....A. mailly

V 合唱

同志社グリーンクラブ
指揮 日下部吉彦

- a. 山のあなた.....武川 寛海
- b. 通りやんせ.....日下部吉彦編
- c. 中國地方子守歌.....山田 耕 笹
日下部吉彦編
- d. 拳骨節(九州地方俚謡).....藤井清水編

——— 休 憩 ———

珈琲店

★ 曜 社

河原町三條下地階 電 3820

RAMME

VI 合唱

同志社グリーンクラブ
指揮 間 淵 孝 志

男聲合唱のための組曲

- 月光とピエロ.....清水 修
- 1. 月 夜
- 2. 秋のピエロ
- 3. ピエロ
- 5. 月光とピエロとピエレットのアラベスク

VII 合唱

慶應義塾ワグネルソサイエタイー
指揮 松 原 秀 一

- a. 自由人の誓.....メンデルスゾーン
- b. 狩人の別れ.....メンデルスゾーン
- c. 酒宴の歌.....ツエルター
- d. マリアの歌.....(op.30 No. 9).....グリーク
- e. 男彼こそ.....(op.30 No. 12).....グリーク

VIII ピアノ獨奏

杉原節子

- a) Rapsody.....J. Brohws
- b) Polonaise A flat major.....F. Chopin

IX 合唱

同志社グリーンクラブ
指揮 日下部吉彦

- a. Listen to the Lambs.....R. Nathaniel Dett
- b. Swing Low, Sweet Chariot.....Negro Spiritual
- c. Go Down, Moses.....Negro Spiritual
- d. Joshua Fought The Battle of Jerico.....Negro Spiritual



佛蘭西風喫茶室

フランソア

4JOKOBASHI NISHIZUME MINAMI
TEL 4042



政治合唱

山口隆俊

此何等関係のない様に思へる二つの集團生活の様相が、歴史と云ふ目から見ると實に大きな関連性がある事は仲々面白い。ベスタロツチが「一つの祝祭なき國民は衰微し、國興る時は祝祭大いに擧がる」と云ふ様な事を云つて居るのも、其關係を云つたものであらふ、例へばナポレオン軍を打破出来なかつたけれども、必ずしも無敵軍ではないと云ふ印象を與へた、一八〇七年東プロシヤのエイラウでの露普連合軍との戦闘が、獨逸リーダー・ターフェル運動の起因となつた事なども面白い、此時ツアーはプロシヤ王フレデリック・ウキルヘルム三世を出し抜いて奈翁と講和を結んだので、三世も止むなくトイルヂットで平和條約を結んだのであるが、歸途タンゲの岸で開いた露兵の合唱に感激して、ツェルターに合唱團を組織する様報告して出来たのがターフェルのスタートである。此時の三世の内心は大いに不平だつたのだが、而も彼の藝術愛好家としての氣持を失ふ程政治的に興奮せず、純な氣持で露兵の合唱を受入れて居る處は、合唱團獨逸の宿命を基礎付け、又十九世紀獨逸ロマン音樂の樹立に大きく寄與し現在尙獨逸音樂が世界の高峰にある所以でもある。

そして其合唱運動が漸く國民文化運動の方向に進んだ頃は、大ビスマルクへの反感からウキーン・メツテルニツヒは、何でも獨逸で流行するものは禁止したために、一八二八年十一月十九日全市で逝去したシューベルトは生前一回も自己の作品以外男聲合唱をきいてゐないだらふと、ハンスリツク博士が書いて居られるが、其にも關せず遂にウキーン男聲合唱協會の名指揮者ヨハン・ヘルベックの探求によつて、彼の珠玉男聲合唱曲の數々が世に出たのである。(僕が同大教授だつたら、合唱運動を通じて、彼三世とメツテルニツヒの政治力を批判せよ、なんて迷題で諸君を苦しめてやるのに等と一寸反射的に悪戯を誘ふ自分の腦を叱りつけて本題にもどる)。其他「婦人論」の著者でビスマルクの彈壓下、獨逸議會に最後の社會黨議員として闘つたアオグスト・ベーベルが合唱團員として議席に在つて尙、合唱に愛情を捧げた事、第一次大戦前のカイザー・ウキルヘルム二世が民族意識高揚の具としてやつたカイザー賞合唱競技祭、其後の獨逸共産黨での合唱運動、或はソビエートの音樂政策、もつと身近な事では第二次大戦中、日本指導者に踊らされて我々が「出て来いニミツツ・マツカサー出て来りや地獄へ逆おとし」等とけしかけられ、マツカサーが厚木の飛行場の上陸、今日の日本になつた事を思ふと、おかしやら、ほつとするやら、馬鹿な事をしたものだとかやしがるやら、一つとして政治に關係のない音樂はなき相である。

扱現在諸君の合唱をやつてゐる日本の政治形態はどんなものであり、其音樂政策はどんなものであらふ、平和條約締結後の困難な對外關係やドツコイ生きてゐる日本人の經濟力再建の途上、文化國家の表看板の手前、その背に厚化粧をノダクツテ文化功勞者に年金五十萬圓を贈る案などが實施されたとは云へ、半分以上は税金で召し上げられるときいてゐる。音樂の分野でも一應獎勵されてゐるが、まあ放任と云ふのが實情であらふ。

茲で我々合唱大學同志社ボーイがグリーだのランツだと云ふ風でなく二百三百名の合唱團を組織して同志大いに音樂藝術の發達に寄與する事は、放任されたる文化策へ指向性を與へる意味でも是非やらねばならない事であらふ。そして既に着手された東都有力合唱團、帝大、早稻田、慶應、立教合唱團を御招きする事は勿論、御膝元の關西學院グリーをも招待して、合唱しあふのみでなく合同大合唱によつて大合唱團ではなければ演奏出来ない、ヘーガー、ブラームス、ブルッフ、ニューデ等々の大曲を演奏して、日本最高いや世界合唱界に報告して恥ぢない秋の演奏會をしたい、其ために春から招待合唱團に提供研究しあふ位の廣い心がまへが必要である。問題は個々の合唱團の跟合い等と云ふ小さい問題ではない、世界合唱界に呼びかける文家國家としての表象の問題である。

我々は此から眞の日本再建の苦闘が始まるのときと同じくして、其に伴ふ藝術的苦闘を捧げて、合唱大學同志社の使命を全ふせねばならない。來々年はグリー創立五十年である。此處で世界合唱界第一流に目標を樹てなければ何の五十年祭ぞやと云ひ度い幸ひ、今年は慶應ワグネルを御招き出来又立教グリーとは既に永年の交りである。皆んな御客様として喜んで一膚ぬいで下さると思ふ。そろそろ合唱祭でしごきをけずる小さくから一歩前進してもよい頃であらふ。私の寄贈した樂譜は圖書館であくびをして君達の奮起を待つて居る筈だ。去年はNHKがわざわざ東京から借りて來た程の作品が首を永くして待つてゐる。

其から必ずしも忠實な譯でなく共よい、日本語で名譯を得て、例へば有名な男聲合唱オペラ「バクダットの盜賊」など聴く者をして其劇構成が呑み込める様な演出と合唱をやつてほしい。借金を質に置いてもお聴とゆきたいものだ。そろそろ生意氣を云ふなと諸君から袋たたきになり相だ、老兵は死なぬ筈であり唯去るのみ、この邊で筆を置かないと命が危な相である。ではワグネルの諸君、グリーの諸君、よろしく心からのハーモニーを君達のあとに續く若人達のためにきかしてあげて下さい。

MEMBERS

慶應義塾ワグネルソサイエティー合唱團

部長	村田武雄	正指揮者	梅原文雄
責任者	高橋和夫	庶務	黒澤村宏
マネージャー	入江幸雄	譜面	中村早苗
指揮	松原秀一	會計	末永周
1st. Tenor	2nd Tenor	Baritone	Bass
入江幸雄	高橋和夫	田中孝	黒澤宏
末永周	笠原一彦	西條信	澤村早苗
吉村泰輔	飛川惠一	喜早哲	中倉一年
伊藤藤定	長谷川正雄	塩崎英夫	永田義之
篠主根禎	楠村昭男	平井文	田中谷
伊藤篠	中村盤	池田文	澁野

同志社グリークラブ

顧問	片桐哲雄	顧問	森本芳雄
幹事	土肥通夫(旧菊井)	マネージャー	都中戸山
指揮	日下部淵真	庶務	木井所田
會計	眞砂久哉		直正義孝
Ist. T.	Ind. T.	Ist. B.	Ind. B.
安馬藤堀今乾黒日小間松村室中中酒坂猪高	淺江福古上小近眞成二大齊下鈴橋都宇吉	福古堀今小門門正中西野岡齊妹芳鈴高寺山山義吉	有朝土本今井金河黒森二大河島田戸山矢吉
藤場森西野川下部山淵井上田川島見根田岡	田川島本山池藤砂宮橋澤藤山木木野田	島市川堀田田木井村岡村本藤尾賀木橋本縣口光川	山倉肥多西上岡上坂川宮橋内津中野田
光夫滿彦弘美彦一志眞馬奈一治剛一雄平夫	男進二三久信昭哉襄雄茂文治文禮晴	司央弘清平勝一雄和治雄治行泓郎祐三登市雄巳一悟一郎	暢正夫一生平一久平一契治之彰健雄彦士介